

綱 領

われわれJayceeは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇氣と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JCI 福島JCニュース

FUKUSHIMA
JUNIOR CHAMBER
OF COMMERCE

—福島青年会議所新聞—

福島青年会議所新聞

WEB版 Vol.498

発行責任者 高橋 美博
編集責任者 渡辺 忍

第4回暁まいる福男福女競走

2016年2月10日(水)夜20時より「第4回暁まいる福男福女競走」を開催いたしました。まずは、冬季開催にも関わらず例年以上に参加して頂きました、参加者の皆様、そして、年末の多忙の中にも関わらず本事業にご協賛頂いた核企業様、団体、個人の皆様に改めて厚く感謝申し上げます。

歳時記魂交流委員会では、福島の中で過去最大であったコミュニティの一つ「暁まいる」の再興、そして、市民の皆様から忘れ去られようとする伝統文化を甦えさせるべく。福島市の真ん中にそびえ立つ貴重な地域資源「信夫山」と300年の歴史ある「暁まいる」を活用し地域の皆様への健全な発展に役に立つ事業と考え事業を開催いたしました。

去年と同じく夜開催を選び「暁まいる」の時間に合わせる事で参加者、応援者の方々に体感して頂き、更に、ふるまいやイルミネーションを楽しんでいただく様に変化をさせました。



参加者は、過去最高の365人の参加でありました。これも、同じ志を持ったメンバーが継続した結晶であると確信しました。

当日は、各放送局が駆けつけTVに取り上げて頂きました。着々と事業の知名度が上がりアンケートでは「来年も開催してください」「信夫山に必要な事業です。」など参加者の皆様から激励の言葉を頂きました。懸念された怪我や事故もなく無事に終了し「ホット」しております。



本事業を実施させて頂き、改めて思うことは冒頭で御礼させていただいた方々も含め、格別には委員会皆様への感謝があります。次年度、予定者の段階から年末年始の忙しい中、仕事、家族があるにも関わらず事業、故郷、そして青年会議所の為に共に運動をして頂きました事を誇りに思っております。そして、メンバーの方々ありがとうございました。

今後、私たちの事業が足風となり他の委員会の運動が成功するようにご協力すると共に、福島青年会議所が市民にとって更に必要とされる様に運動に取り組みたいです。

今後ともよろしくお願いいたします。



▲福島青年会議所 高橋理事長と福男福女の皆さん

誇りあふれる福島のために……やったれ!

災害時支援相互協力協定締結式



平成28年2月23日、ホテル辰巳屋において、社会福祉法人福島市社会福祉協議会と公益社団法人福島青年会議所が「災害時支援相互協力協定」を締結致しました。福島市社会福祉協議会からは、金子会長を始めとする4名の方と福島青年会議所メンバーが締結式に出席を致しました。

福島市は吾妻山や阿武隈川、荒川などの豊かな自然を擁しており、いつ起こるとも知れない自然災害に対して備えが必要です。東日本大震災において、福島青年会議所は各々の会員の強みを活かして、支援物資の調達や運搬について独自に展開しました。しかしながら、被災者のニーズの把握等において非常に苦勞をしました。私たちは物資の調達能力や運搬能力は有しておりましたが、どこで誰が何を必要としているかがわからなかったのです。福島青年会議所の能力を最大限活かすためにも、被災者ニーズ把握に長けた社会福祉協議会と連携することによって、お互いの長所を更に高めることができると考えました。また、福島市社会福祉協議会も、災害時には福島青年会議所の力が必要であると理解していただきました。そこで、この度、両者の間に協定を締結する運びとなりました。

協定締結式においては、福島市社会福祉協議会金子会長並びに福島青年会議所高橋理事より挨拶があり、協定締

結の意義、福島市社会福祉協議会の活動について説明がなされました。また、NHKや福島民報新聞、福島民友新聞の取材も入り、福島市民の皆様にも報道を通して本協定締結について広く知っていただくことができました。

今後は福島市社会福祉協議会と福島青年会議所が連携を図り、平時には会議や防災訓練を通じて連携の強化に努め、災害時にはその能力を存分に発揮できるように備えてまいります。

災害は起こらないことが一番ですが、いつの日か必ず起こるものです。その備えを万全としておくべく、福島青年会議所は最大限の努力を行ってまいります。今後とも市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。



▲ (左) 福島青年会議所 高橋理事と福島市社会福祉協議会 金子会長

信夫山パークランニングレース

本年も5月15日（日）に第4回目となる「信夫山パークランニングレース」を開催致します。「パークランニングレース」とは、日常的に楽しく街なかを走る「シティランニング」と緑や土の匂いを感じながら自然の中を走る「トレイルランニング」のいいところ取りをした新しいランニングスタイルを楽しめるレースです。そして、福島市の中央に位置する信夫山は、シティ、トレイルが合わさったパークランニングレースの格好のスポットとなります。

4回目となる今回も、10 km男女、5 km男女、3 km男女、3 kmペアの7コースを設定しており、記録に挑戦するもよし、家族や仲間と楽しむもよし、自然を見ながらゆっくり走るもよしの参加者一人ひとりが自分なりの楽しみ方で満足できる大会となっております。また、福島市のシンボルである信夫山の魅力を県内外の方に知ってもらい、観光資源として認知向上に繋がればと考えております。

それから、レースを行うだけではなく、今回も食ブースを出展予定であり、前回大会に引き続き、桜の聖母女子短期大学の栄養士の卵たちと地元企業のコラボにより誕生した「アスリート弁当」や、地元企業とタレの開発から作り上げた「福島豚みそ生姜焼重」、また、福島市では誰もが知る地元料理「イカ人参」など数多くの料理を出展し、福島の魅力を存分に発信していきたいと思っております。こちらの食ブースに関してはレース参加者のみならず、一般来場者の方も飲食が可能となっておりますので、たくさんの方に大会の雰囲気味わいながら食を堪能して頂きたいです。※ご飲食は有料となっております。

またパークランニングレースでは「Pink Park Project」として、太子堂公園内に桜の木の植樹を専門家の指導のもと毎年行っております。今年は



桜だけではなくツツジの植樹も予定しており、季節に合わせた楽しみ方が今後一層増えるのではないかと考えております。信



夫山に自分たちで植樹をすることにより、少しずつ成長し、花を咲かせる木々達を毎年見て頂くのも信夫山を訪れる楽しみの一つになるのではないのでしょうか。

福島市は豊かな自然と都市が共存する美しいまちであり、そこには先人達が築きあげてきた文化や伝統が息づいております。福島市民が地域を愛し、誇りに思える福島を実現するため、この事業を行います。

パークランニングレースはもちろん、それ以外にも福島市の伝統や信夫山の魅力、または美味しい食事など、一人ひとりが違う発見ができる大会ともなっております。

最後に、今回の大会を通じてたくさんの方にご来場頂き、福島青年会議所の運動が皆様に伝われば幸いです。とても楽しい大会となっておりますので会員一同お待ち致しております。



参加者募集中！ 申込締切 2016年4月17日

シティランニング×トレイルランニングで
しのぶやま
福島市のシンボル「信夫山」を駆け抜けよう！



Pink Park Project
信夫山パークランニングレース2016
～信夫山を桃色に染めよう！～

5.15 SUN 10:00 スタート！

スタート・ゴール／福島縣護國神社

エントリーはこちら <http://runnet.jp/>



「信夫山パークランニングレース」とは？

日常的に楽しく街なかを走る「シティランニング」。そして緑や土の匂いを感じながら自然の中を走る「トレイルランニング」。「信夫山パークランニングレース」はそんな2つのランニングのいいとこ取りをした新しいランニングスタイルを楽しめるレースです。そして福島市のど真ん中にある信夫山は、シティとトレイルが合わさったパークランニングの格好のスポット！街中の自然を感じながら、みんなで楽しく信夫山を駆け抜けよう！



コース監修：真船 孝道 (MAFUNE-TAKAMICHI)
南会津地方在住マウンテンプレイヤー
信夫山眺まいり福男福女競走 初代福男



主催 公益社団法人 福島青年会議所 <http://f-247jc.jp/>

協力／ふくしまトレイルランニング振興会・信夫山観光活用プロジェクト実行委員会(順不同) ボランティア／うつくしまスポーツルーターズ・桜の聖母短期大学
後援／福島市・福島民報社・福島民友新聞社・ラジオ福島・福島テレビ・福島中央テレビ・福島放送・テレビユー福島・ふくしまFM・福島コミュニティ放送FMボコ(順不同)